

K S K 通信

特定非営利活動法人 甲斐駒清流懇話会

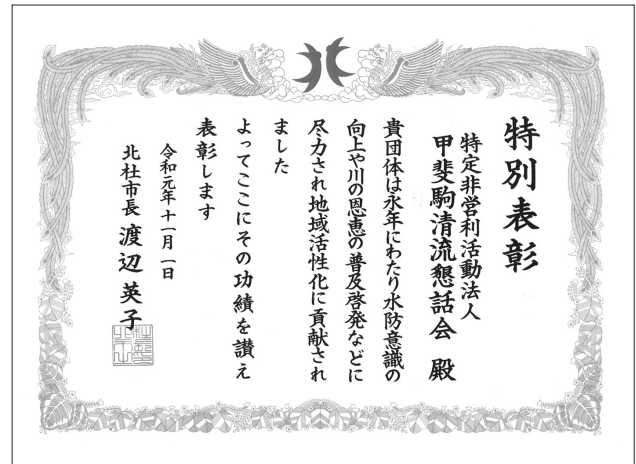
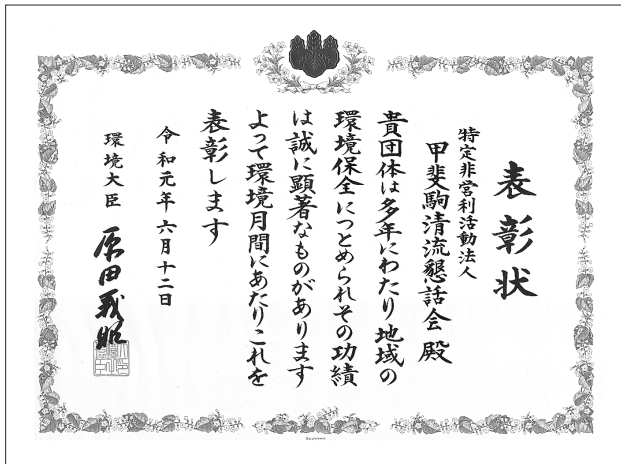
令和2年4月発行

NPO法人甲斐駒清流懇話会

発行責任者 遠山

408-0315 北杜市白州町台ヶ原
山村広場休憩室内

昭和34年・57年に台風による土石流災害で被災した武川・白州地域を舞台にして防災思想と環境教育の普及を主とした活動を行う甲斐駒清流懇話会は平成11年に環境活動団体として国土交通省、行政関係者、学識経験者、地元企業、一般市民などと共同で活動を行っており、平成22年にNPO法人となり10年目となりました。当会は部会を設置し、それぞれ会員の専門分野を生かし自然災害の歴史を伝承し、地域の子供や市民に環境教育と防災思想の普及、自然災害から地域の人々を守り、生活の安全を考え、地域の発展のために尽くす活動を行っています。平成27年度からは北杜市南アルプスユネスコエコパークの活動に協力しています。今年は環境大臣から環境保全に関する活動の功績者表彰、北杜市から水防に関する活動に対する特別表彰をそれぞれ受賞しました。また当会の活動はすべて北杜市から環境保全基金、関東地域づくり協会から助成金、砂防ボランティア協会から助成金を受けて行っています。



○令和元年第4回防災フェア・甲斐駒清流ウオーク・フットパスを開催

令和元年6月13日、大武川 防災復興記念公園にて防災フェアを開催しました。

武川・白州に起きた台風災害の歴史を学び、伝承するとともにビデオで最新の災害の様子を鑑賞したり、被災体験者からの体験談を聞き、ドローンで大武川の上空から河川状況や地域の環境を見学しました。災害時に働く建設重機への試乗を行い、峡北消防署の協力により消防車や高所作業車への試乗など参加者はさまざまな場面で災害について学習をすることができました。当日の会場内には地元の特産の野菜で作った鍋やヤマメの塩焼き、県産ワインや甘いトマトやパンなどの販売もあり、参加者は学びながら楽しいひと時を過ごすことが出来ました。昨年に引き続きフットパス希望者にマップを配布し、自由に白州・武川地域の自然景観を楽しみながら名所旧跡を歩いてもらいました。

フェア参加者約200人。



防災フェア



防災フェア

○令和元年度 砂防校外授業が開催されました。



砂防校外授業

毎年大武川・災害復興記念公園にて白州・武川地域の小学校の3年生の児童とその親を招いて、災害の歴史を学び防災に関する環境教育を行っています。今年はいにくの雨天で、急遽武川小学校の体育館をお借りして実施いたしました。校外授業は初めて大武川で開催してから20回目となりました。児童と保護者が参加するこの事業は武川・白州小学校の恒例行事となっており、校外で学ぶ実践を伴う

環境教育として期待されています。通常はドローンの飛行見学や川に棲むイワナやヤマメなどの魚の説明や放流も行い、自然災害体験車や重機への試乗や被災体験者からの講話などを聴き、災害について多くのことを親子で学びます。雨天のため武川小学校の校庭に配置された自然災害体験車、3Dの土石流体験車に乗って児童や父兄は災害の実体験を味わいました。体育館で参加者全体の記念撮影も行いました。今年度の参加数は生徒42名とその保護者約40名でした。この事業は毎年、富士川砂防事務所や山梨県水産技術センターの協力を得て北杜市の環境保全基金の助成で開催しています。



砂防校外授業

○溪流魚と触れ合う溪流祭りを開催

毎年、7月、9月の土曜日に道の駅はくしゅうの構内で開催する溪流祭りは子供たちと溪流魚（ヤマメ）とのふれあいを通じて溪流環境やそこに棲む生物を知ることが目的で開催しています。今年白州

町台ヶ原の宿市に参加したため7月のみの開催でした。溪流祭りでは同時に土石流災害の被災状況などの写真を同時にパネル展示しています。

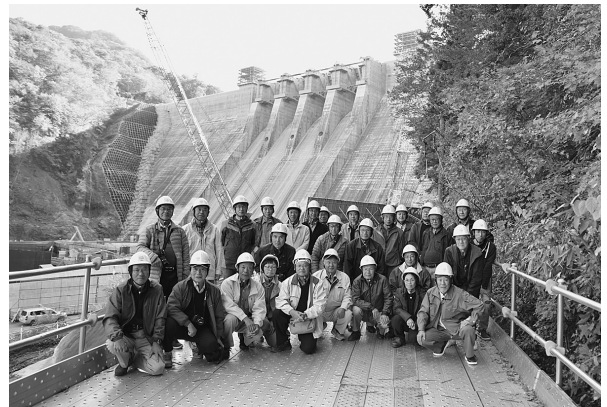
毎年、道の駅で開催されるこの行事は観光客や地元の子供たちが日ごろ触れ合えない、綺麗な溪流に棲むというヤマメを捕まえ、味わうことのできる楽しいひと時です。観光客、地元の子供達を含め、参加者は計約300名でした。

○新しい川づくり委員会は県外施設の見学会を開催

台風19号で話題になったハッ場ダム、洪水の難を逃れて災害を防ぐことができたダムの役割や現状を見学するため長野県長野原町に出かけ、災害地見学会を実施しました。また、東京支部の企画で九州局部豪雨と熊本大地震の被災地見学に参加しました。参加した会員の報告です。

ハッ場ダムへ県外研修（本部主催）

11月2日（土）、快晴の中、北原会長以下28名（清流懇話会19名・尾白川を思う会9名）は朝8時30分に白州総合支所を出発、国道141を佐久方面に、一部新しい中部横断自動車道を通り、観光客でにぎわう紅葉の美しかった軽井沢を経て、群馬県長野原町のハッ場ダムへは昼過ぎに着いた。



ハッ場ダム見学

参加者の目的は県外の防災施設を見学して、私達の住んでいる地域の自然災害や防災について再確認するということである。様々な国の思惑に翻弄され、長い

年月をかけるなどの経緯のあった群馬県長野原にあるハッ場ダムを見学ことになった。当初、新しいダムに試験注水のため、沈みゆく湖底が見られることと多目的ダムの広大な規模や周辺の集落の環境等を見ることが見学の目的であったが、10月12～13日の台風19号の襲来によってダムは満杯になってしまい湖底は見ることは出来なかった。しかし、今回の台風ではダムのお陰で下流の地域は洪水の被害にあわずにすんだようだ。試験注水の最中のダムも国交省のご配慮もあり見晴台からの広大な全景と一般人は入れない工事中のダムの裏側も見る事が出来た。案内も10月1日から国交省から地元観光協会に委託されたという事でしたが非常に案内の方の説明が解かり易く、参加者は満足したようでした。自然災害多目的ダムの在り方などを改めて考えさせられた。ダムの水は、台風の影響で濁っていたが、澄み切った水が満杯になる景色はさぞかし美しいだろうと皆さん思いを巡らした。会員同士の交流も出来て有意義な一日であった。（記 事務局長 日向 勝）

◎ハッ場ダム概要

形式：重力式コンクリートダム 総貯水量1億750万立方メートル（東京ドームの87倍）

工期：1967年～2019年（一時期、前原元国土交通大臣の時中断あり）

事業主体：国土交通省関東地方整備局

建設目的：洪水調整・水流の正常な機能を維持・水道及び工業用水の確保（関東1都5県の水がめ）・発電等を目的にする多目的なダム

九州局部豪雨と熊本大地震の被災地見学（東京支部企画）

参加者（東京支部会員：林・綱木・堀部・竹歳・大野 本部会員：砂田・加賀美・遠山）



熊本現地視察

天皇陛下御即位祝賀パレードの行われる前日、目の前に行く何台ものパトカーや赤ランプの点滅するバスなどの行列に囲まれるようにして、高速バスに乗り羽田空港に着いた私達は九州地方整備局の林調整官の案内で、九州地域の土砂災害の被災地の復興と再生の現場を見学した。平成28年に熊本を襲ったマグニチュード7の2度にわたる大地震とその後の平成29年7月の豪雨によって、甚大な被害を受けた阿蘇のカルデラ台

地のあちこちに刻まれた崩壊地と崩落した阿蘇大橋の復旧工事の現場を見学した。また、黒川に建設される立野ダムの掘削現場に立ち入り、建設事務所の所長さんから懇切丁寧な説明を聞いた。地震による大きな土砂災害を起こした阿蘇谷に建設している立野ダムの特徴は通常の川の流れをそのままにしてせき止めず、豪雨の時にだけ貯水して洪水を防ぐ流水ダムという特殊な工法であり、完成までに多くの人々の力と膨大な経費が掛かることを知った。そしてこのダムの完成後は地元の住民と共にジオパークという自然環境を生かし、ダムに貯水しないため、将来は不要になった工事用の道路を散策路に替え、調査用に使用したトンネルの再利用として野菜やワインの貯蔵庫に、ダムの周辺の柱状節理の崖を環境教育に生かして自然との共存を図っていくという。これも砂防ダム建設の在り方の一つであると考えさせられた。また、豪雨災害により大分県日田市の山村地域の被災地を見学した。それほど高山でもない山の溪谷などが各所でズブズブに崩壊し、流された多くの家屋や台地はいまだに復旧の途上にあり、集落や田畑が地震により大きな断層が生じて隆起したり、ずれたりしていた。さらに崩壊した堤防の復旧作業などを見て回りながら、自然の力の恐ろしさを実感した。川岸や山裾に壁の様に設置された土嚢が摘まれたままのこの地域の復興の日々はまだまだ遠いと感じた。最近の異常気象は記録にないという豪雨は、いままでに考えられないような大災害に発展する。山梨県も例外ではないと思う。最近山梨県では大きな災害は起きていないが、昭和34年・57年の時の台風の時のような大きな土砂災害はいつ起きてもおかしくない状況になって来ている。当会の活動はこうした忘れてはならない自然災害の記憶を伝え、人々の命や財産、住む街を守るためには常日頃の災害に対する心構えが必要である事を伝え、身を守る術を知ってもらう大切な役目を担っているとつくづく感じた。東京支部の会員の皆様とこうした研修の機会をもつことは大変貴重な体験であり意義あることだと思う。この度の災害被災地の案内を快く引き受けてくださった林調整官に深く感謝しつつ帰路に着いた。（記 事務局 遠山）

○人工産卵河川のメンテナンスを行いました。

小武川の源流域に造られた人工産卵河川は平成19年から溪流魚の産卵と育成を促す活動として、富士川砂防事務所と峡北漁協と県水産技術センターの協力により始まった活動です。毎年秋には人工河川のメンテナンスを行っています。落ち葉や雑草の除去、砂利砂の入れ替えをして河床の整備を行い、ヤマメやイワナが産卵出来る環境を整えます。今年も峡北漁協と共に砂防事務所、水産技術センターの協力を得て、会員約40名が参加して行いました。



人工産卵河川メンテナンス

○被災体験者の証言集のビデオを北杜市に寄付しました。



DVD伝達式

昭和34年、57年に山梨県を襲った台風による白州・武川の土石流災害の被災体験者は年々高齢化しており、当時の被災体験を話す語り部が減少してきました。歴史的な災害の被災地の現状を伝承するため被災者の証言を収録し、平成30年度にその第1弾を製作し、令和元年度に第2弾を制作し、それらをまとめた約90本のDVDを北杜市に寄付いたしました。被災者の証言集は災害の歴史や自然環境について学ぶ良い教材です。被災地域の関係機関、各学校、図書館などに配布

していただきました。地域の皆さんに昭和34年、57年に起きた台風災害の歴史を伝える活動に役立つものと期待しています。

○地域を守る砂防施設の現場見学会に参加

昭和34年災害から60周年の関連イベントとして富士川砂防事務所主催の現地見学会が開催され、多くの会員が参加しました。11月30日、地域の土砂災害の歴史をたどり地域を守る砂防施設について学ぶため、大武川と釜無合流点から大武川大堰堤～大武川上流・朴の木橋周辺の砂防施設の現場で大規模な崩落跡や土砂に流されてきた大木などを見ながら、砂防堰堤の重要性を再確認しました。



富士川砂防事務所 砂防施設見学会

○地域活動に参加（台ヶ原宿市）



台ヶ原 宿市

今年から台ヶ原地区で開催される宿市に参加することになり、10月18日～20日の3日間会員一同、手作りのお食事処を開きました。会員が地元で栽培している大根、サト芋、ニンジン、ネギなどの野菜を持ち寄って芋汁を作り、大久保氏の好意で毎年採取した野生のキノコを提供して頂いて、マツタケや香茸などの入ったおいしいキノコご飯を販売しました。サトイモ汁とキノコご飯とヤマメの塩焼きの贅沢なお昼ご飯を提供した食事処は大変好評で毎回完売で

した。会員も楽しみながら、街づくりのイベントに協力しました。

○令和2年度の事業予定

- 5月 総会
- 6月5日 砂防郊外授業 開催
- 6月6日 防災フェアとウオーク 開催
- 7月～9月 溪流祭り 開催
- 10月 県外被災地見学会 開催
- 10月 台ヶ原宿市 参加
- 9月～10月 人口産卵河川メンテナンス 実施

○会員・賛助会員を募集しています。

当会の趣旨に賛同し、私達の活動に参加して下さる方を募集しています。会員になって会の運営や企画に参加くださる方を歓迎します。希望者は下記にお申し込み下さい。また賛助会員(林°-ターズ°会員)は様々なイベントに参加し活動を応援して下さる方を募集しています。入退会は自由です。どなたでもいつでも歓迎いたします。

申込先 〒408-0312 北杜市白州町台ヶ原159-5 山村休憩室内

NPO法人 甲斐駒清流懇話会事務所 又は

Faxで055-253-8779 (連絡先 事務局・遠山)

会員年会費 個人会員3000円 法人会員10,000円 (入会金 1,000円)

賛助会員 個人1,000円から 法人10,000円から